

地域生物多様性保全活動推進事業

(地域で生物多様性の保全・再生活動等を実施する体制整備への支援事業)

長野県 環境部 自然保護課

1 事業目的

長野県の自然環境として特色的な草原環境を維持・再生するため、霧ヶ峰を事例に生物多様性に配慮した草原管理方法を確立する。また、霧ヶ峰自然再生実施計画を進めるため、地権者等が主体となる取組を育成し、草原環境を継続的に維持していくことを目的とする。

2 現状と課題

草原は、様々な植生、群落がパッチ状にあることから、生物多様性が豊かである。しかしながら、農耕形態の変化や燃料革命、草地への造林等により、植生遷移や森林化が進み、希少種等を含めた生物多様性の損失のほか、景観、文化、観光等の観点からも草原の損失は大きい。

草原環境の維持再生の効果的手法の確立と、地域と共に活動資金や労務を確保するため、寄付金や企業からの社会貢献活動等を加えて持続的な活動ができる組織の構築が課題である。

3 事業内容

- ① 刈り取り等の作業内容に対する資材支援（草刈機、燃料、鎌、ゴミ袋等の資材）
- ② 効果的な刈り取り等の草原維持活動に対する調査

4 事業効果

地域の取り組みにより、霧ヶ峰草原の草原環境における豊かな生物多様性の保全が図られる。草原環境の保全・再生について、県内の他の草原地域への取組への波及が期待できる。

○ 地域の協力

今回の事業は、一番経費がかかる労務費の提供を地権者やボランティア、NPO 等から提供を受けて取り組み、以後、地域主体で維持していく取組である。

霧ヶ峰における草原環境の保全再生に向けた取組内容

対策	ニホンジカ食害対策		草原環境維持対策	
	シカ食害対策 (柵)設置	柵の維持管理 (草刈、補修)	特定外来生物 (植物)駆除	草刈
目指す姿	地域による防護柵設置と維持管理		外来植物の減少	草原環境の維持・再生
当初の課題	・柵の購入 ・毎年の柵設置	・草刈、柵の補修等の 労務の担い手の確保	・効果的な駆除手法の確立 ・駆除活動の担い手確保	効果的手法の確立
県の関与	柵資材の提供 H18～24	労務の提供 H20～22	効果的手法の確立調査 H24～25	効果的な手法調査 H26～
地域の対応	毎年の設置により地域 での柵設置技術を習得	草刈、柵の補修技術の習得	特定外来生物(植物)の認知度 の上昇・駆除手法の取得	・毎年の効果的な 草刈が課題
地域による 取り組み	自立	自立	継続が課題	今後の課題
現状	協議会、 地域による設置	地域による維持管理	協議会、 地域による駆除が開始	検討中